

# Mom!で2学期も行きたい学校へ

## Mom!で行事を作り上げる



2学期が始まりました。夏休みに様々な経験を積んだ子供たちは、1学期とはまた違った姿を見せています。

2学期は、多くの学校行事が計画されています。各行事を作り上げていく過程で、教職員等には「一人一人の子供を大切にする」という基本姿勢で児童生徒を指導することが求められます。

子供と向き合う教職員の基本的な姿勢として、

「M：見つめる」

「o：思いをめぐらせる」

「m：向き合う」

を大切にしましょう。



→「H29なくそう差別 築こう明るい社会P12～13」

## Mom!で日常を振り返る

### 例1 帰りの学級活動で

先生：「このお知らせは必ず親に見せるんだよ。」

観点：保護者と一緒に暮らしていない子供もいます。子供はどう感じるのでしょうか。

### 例2 出欠確認で

先生：(長欠の子供のところで)「はい、〇〇さんが欠席か、長いなあ。」

観点：周囲の子供に誤った固定観念を植えつけることになります。〇〇さんは、なぜ学校に来られないのか。そこに思いをめぐらせるべきです。休み明けは再登校のチャンスでもあります。

### 例3 夏休みの宿題について

先生A：「うちのクラス、夏休みの宿題未提出が多くて困っちゃうな。」

先生B：「私なんか、未提出の子の名前を黒板に貼り出してるよ。」

観点：マイナスの要素で名前が公表された場合、自己肯定感を持ってないのと言うまでもありません。

周囲の子供は、様々なタイミングで未提出の子をからかうかもしれません。児童・生徒一人一人を大切に、背景を探り、個に応じた指導を心がけましょう。



### 例4 学年会で

先生A：「1組の〇〇さんは、いつも腕や足にあざができていて、元気もなく、気になります。」

先生B：「大げさですよ。きっと、どこかにぶつけただけですよ。」

観点：夏休みの間に子供たちを取り巻く環境が大きく変わる可能性があります。このようなケースでは迅速な対応が必要です。ただちに管理職に報告し、学校として組織で対応します。最優先すべきことは児童・生徒の心身の保護です。

## Mom!で学級を点検する

教師が、どのような姿勢でどのように子供たちとふれあっているかを自己点検する必要があります。

ここで、教師のタイプをチェックしてみましょう！

教師の指導の在り方と児童生徒が見せる学級状態<指導重視タイプ>

学習面も生活面もきちんとした学級に見えます。しかし、子供にとっては、教師の指導一辺倒にがまんする学級生活になってしまいがちです。



子供たちはそのストレスから、友達へのいたづらやいじめ、さらには教師への反抗に発展することもあります。

<援助重視タイプ>

子供たちは、個性や自主性を発揮する機会が多くなり、やる気が高くなります。



先生には、受容する雰囲気があるので、温かな人間関係が生まれます。ただし、集団をまとめる技術が伴わないと学級のルールが確立されず、騒がしい学級になってしまいがちな面もあります。

<指導と援助のバランス重視タイプ>

学級は、「勉強と遊びのけじめのある生活」になる



でしょう。教師がモデルとなり、子供たちが互いに学び合う学級風土が築かれます。指導的側面ばかりで対応してしまう子が固定化しないように、子供たちの多様な面を認めることが必要です。

**子供一人一人を大切に愛情をもって接しようとする全ての教職員等の姿勢が人権教育の環境そのものです。**